

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 横山泰一

1. 概 要

歩行名称	東北東ブロック
歩行区間詳細	スタート地点: JR 常磐線双葉駅
	ゴール地点: JR 常磐線勿来駅
実施期間	2023 年 4 月 6 日～10 日
全歩行距離	90km

2. メンバー表 (参加申し込み順)

No	役割・分担	氏 名	年齢	歩行日数	備 考
1	リーダー	横山泰一	77	5	13 期
2		横山弥生	76	5	13 期
3		太田正廣	76	4	13 期
4		山田美知子	77	2	12 期
5		栗林由利	77	2	山田さんの友人
6		蔵田道子	74	4	15 期
7		高瀬雅男	77	1	13 期

3. 歩行の概要

	月日	出発地 ～ 到着地	歩行距離	歩行参加者	備 考
1	4 月 6 日	双葉駅～夜ノ森駅	12km	横山泰一、弥生、蔵田、高瀬	高瀬途中離脱
2	4 月 7 日	夜ノ森駅～広野駅	21km	横山泰一、弥生、蔵田、太田	
3	4 月 8 日	広野駅～新舞子浜	23km	横山泰一、弥生、蔵田、太田、山田、栗林	山田、栗林途中参加
4	4 月 9 日	新舞子浜～三崎公園	16km	横山泰一、弥生、蔵田、太田、山田、栗林	蔵田、太田途中離脱
5	4 月 10 日	三崎公園～勿来駅	18km	横山泰一、弥生、山田、栗林	山田、栗林途中離脱

4. 参加費

参加者延べ日数

24 日

参加費合計 2,400 円

5. 費用概算(横山の場合)

交通費	14,278 円
宿泊費	39,555 円
飲食費等	4,600 円
入館料	300 円
合計	58,728 円

6. 歩行地域の概要

今回の歩行ルート前半は福島第一原発と第二原発を回り込む内陸部を歩行します。この地域のうち双葉町、大熊町そして富岡町は原発事故の影響を強く受けた地域です。その中で、大熊町の特定復興再生拠点区域は昨年 6 月 30 日に、双葉町の同地域は昨年 8 月 30 日に避難指示が解除されました。双葉町の場合には、これにより初めて住民が居住する区域ができたことになりました。とはいえ、大熊、双葉両町の大部分は帰還困難区域として今だに避難指示が出されたままです。富岡町では、同地域である夜ノ森地区について桜まつりに合わせて、今年 4 月 1 日に避難指示が解除されたばかりです。その他の帰還困難区域については一部が解除されたに過ぎません。

また、双葉町及び大熊町の 6 号線から海岸までは、中間貯蔵施設と第 1 原発の敷地となっています。富岡町においては、海岸線を含んで帰還困難区域が広がるとともに、第 2 原発の敷地が海岸線沿いにあります。

これらの町よりも南部にある檜葉町の場合は 2015 年 9 月 5 日に、広野町の場合には、2012 年 3 月 31 日に避難指示が解除されています。

いわき市については、主要なところは避難指示区域とはなっていませんでした。浜通りで避難指示が出された後、多くのこれらの自治体の住民が同市に避難していました。

いわき市の四ツ倉からは磐城海岸自然公園や勿来県立自然公園に指定された綺麗な海岸線が続く地域でした。ここも東日本大震災で甚大な津波被害を受け、海岸には防潮堤と防災林を組み合わせた多重防御施設の防災緑地が造られています。

7. 歩行の詳細



4月6日 曇り時々晴れ

東京から蔵田さん、横山泰一と弥生が常磐線双葉駅に11:10に到着した。福島市在住の高瀬さんが、原ノ町経由で双葉駅につき、我々を待っていた。双葉駅には待合室を兼ねた町民の集いの場があり、そこには展示パネル、3.11前後の双葉町商店街の画集が備えられている。その一角の椅子・テーブルで、早めの昼食とした。

12:00 双葉駅出発。駅周辺は避難指示が解除されたばかり。かつての駅前商店街を歩く。解体されていない被災当時の建物や解体除染により更地にされた空き地が続く。



スタート地点の双葉駅にて



双葉駅前の商店街に行く



震災後のままの商店街

12:30 国道6号に出る。国道沿いには、各地の自治体あるいは団体から復興支援として送られてきた桜が、激励の言葉と共に植えられている。満開は過ぎているが、周りの荒廃した風景の中で、一際目立つ。

空間線量を測定している掲示板が設けられ、 $0.68 \mu\text{Sv/h}$ と、大きな値が表示されていた。

$0.23 \mu\text{Sv/h}$ は平常時人が暮らす上限空間線量である 1mSv/y に相当する。



国道6号線沿いに植えられた桜



空間線量計は高い値を示していた

13:10 双葉町から大熊町へ入る。携帯していた線量計が $1.3 \mu\text{Sv/h}$ を示し驚いた。道路右側は帰還困難区域で、道路はバリケードで封鎖されている。左側は除染ででた汚染土の丘（中間貯蔵施設用地）が広がり、その先に第一原発の大型クレーンが見えた。風が強く、粉じんが舞っているために線量が高いと、勝手に解釈した。その後はもっと高い値も出てそうそうにその場を離れた。



中間貯蔵施設の奥に第一原発のクレーン



持参した線量計は 1.33 μ Sv/h



向かいの道路は帰還困難区域のためバリケードで封鎖されている。

14:40 営業しているガソリンスタンドに到着。高瀬さんは体調の関係で、この地点から分岐して大野駅へ向かい、JR 常磐線で広野駅に出ることになった。ガソリンスタンドで歩いて大野駅へ行けるか聞いたところ OK との返事で安心した。わずかに避難指示を解除された特定復興再生拠点区域だったからである。ガソリンスタンドの少し前に、大野駅へ向かう道が分岐していたが、そこは復興再生拠点区域に含まれず、人の通行は禁止とされていた。

16:22 夜ノ森桜並木に到達。民家はなく解体された広場の隣に公園が造られている。夜ノ森の桜並木はだいぶ花が散ってしまい、5分咲きならぬ、5分散り状態だったが、なんとか桜の花に間に合った。2日後に桜まつりが開催されるのだが、。。。。。



歩道のない国道 6 号は少し怖かった



夜ノ森へ到着



桜並木を行く



だいぶ散ってしまった枝



桜の花びらの歩道もまた風情がある



2 日後の桜まつりの幟には「ただいま」の文字



夜ノ森駅到着

16 : 46 夜ノ森駅到着。ここから JR 常磐線に乗る。大野駅で乗車した高瀬さんと一緒に広野駅に到着したところ、太田さんが、駅の外でお出迎え。全員で、ホテル（ハタゴイン福島広野）チェックイン。

夜は、部屋で高瀬さんから、東電の資料をもとに、「第一原発の廃炉の現状と取組みについて」の説明があった。

4 月 7 日 曇り時々雨・強風

広野駅から JR 常磐線に乗り、昨日の到着点である夜ノ森駅に到着。

10 : 18 夜ノ森駅から全員（太田、横山、弥生、蔵田）で歩行を開始した。

11 : 16 桜並木を通り過ぎ、田畑の中を とみおかアーカイブミュージアムに到着した。



広野駅の空間線量



夜ノ森駅前の解体されていない建物(太田撮影)



今日も桜並木を歩く



とみおかアーカイブミュージアム

「とみおかアーカイブミュージアム」（以下とみおかミュージアムとする）は、東日本大震災と原発事故を伝える資料に加え、町の歴史や文化に関する史料を展示し、将来に伝える施設であるシアターで震災や原発事故の映像を見て、常設展示室にある地域の歴史や震災遺産の展示品などを見学した。

11：45 ここから2班に別れて歩く。A班（横山泰一・蔵田）は富岡駅を經由して竜田駅まで歩き、JR常磐線で広野駅へ戻る。

B班（太田・弥生）は富岡駅からJR常磐線で竜田駅へ行き、そこから広野のホテルまで歩く。

A班

11：50 とみおかミュージアムを出発し、12：37 富岡駅に到着したが昼食を食べられる食事処が無く、少し戻ってサクラモールで昼食を済ませた。

13：30 富岡駅からは、国道6号に行く。福島第二原発を回り込み、セブンイレブン手前の太田公園を抜けて県道244号に入り、竜田駅へ向かった。途中の道路わきには、早くもシャクナゲやショウジョウバカマが咲いていた。



わずかに見える太平洋



福島第二原発の集中式排気筒



ショウジョウバカマ



竜田駅にて



竜田駅の空間線量(しっかり除染)

16:16 竜田駅着

17:12 竜田駅発の常磐線で広野駅へ戻りホテルへ。

B 班 (太田・弥生)

11:40 列車の出発時間の都合で、A 班より早く「とみおかミュージアム」を出発。

12:10 には富岡駅に着き、12:37 発の常磐線で、竜田駅に着く。同駅周辺で昼食をとる。

13:30 竜田駅のロータリーから、県道 391 号を目指して歩く。391 号は木戸川を渡ると海岸線ぞいの道となるが、断崖の上の峠道でもある。一旦峠を下ると、広野火力が川向こうに遠望できる。河口から川の両岸の農地は津波に被災した状況のままである。橋の手前には、慰霊碑が建つ。その後 J ビレッジの脇を通り、常磐線 J ビレッジ駅を見下ろした後、同線路に並行する内陸の道をいく。海岸方向左手は、広野火力発電所（東京電力の唯一の域外火力発電所）用地となっている。県道を出て、「浜通り」へ入るものの、この部分もまた、浜ではなく断崖の上を通る峠道であり、左手は広野火力と関連会社の用地、右手は工業団地の造成地という状況である。峠を下って川を越すと、左手に防風林・海岸が続き、慰霊碑が浜に建つ。右手には、防災緑地が造成されている。海岸線から防災緑地を突っ切る道を進むと、新たに設けられた、わずかな面積の住宅団地を通り抜ける。その先、駅に面した昨日も宿泊した宿に到着をし、A 班を待つ。（弥生記・写真）



峠を下り、津波が上った海岸へ



広野火力が見える



河口周辺



集落が失われ、それをのちの世代に残すために



広野火力も災害にあったが、今は IGCC 発電所を設置

4月8日 曇り時々雨・強風

四ツ倉まで2班に別れて歩行する。C班（泰一・弥生）は広野から久ノ浜駅まで歩き常磐線で四ツ倉へ移動、D班（太田・蔵田）は広野駅から常磐線で久ノ浜駅へ移動し、四ツ倉駅まで歩くことにした。四ツ倉駅で山田さんと栗林さんが合流し新舞子浜まで全員で歩く。

C 班(泰一・弥生)

7:30 雨具を着てホテル裏口から海岸を目指した。

7:43 広野防災緑地 強風で海のうねりが高く、岸に寄せる音が人のいない風景の中に響く。海岸沿いの道をいくと線路にぶつかる。踏切があり、その向こうには太平洋が続く。線路から離れると、再び峠道となり、6号線をくぐり、峠をトンネルで越える。

8:31 ここで一休み。道は海に向かい、下っていくが、途中、海岸から離れた線路にぶつかる。今度はその踏切を渡り、海岸近くを歩くこととなる。ここでも、慰霊碑に出会う。末続海岸を横目で見えて、再び道は山側に方向を変える。

相変わらずのソーラーパネルにため息をつき、ふと山の方を見上げると、桜の花。桜の花と新緑に覆われた様(さま)は、海からほんの少し入ったところにも関わらず、山里の風景そのものである。菜の花の向こうには、ミツバチの箱もあり、春の山里を楽しみつつ、峠を越える。



広野防災緑地から下浅見川河口と太平洋



県道 391 号を進む



常磐線踏切越の太平洋(広野町夕筋)



トンネルの少し先からいわき市になる



いわき市久之浜町末続付近



民家の庭先、ミツバチの巣が置かれている



美しい芽吹き of 森



金ヶ沢の海岸

10:10 久之浜町金ヶ沢に出て、漁港回りの道もあったが、ひとまずと思い、久ノ浜駅へと急ぐ。 駅付近には、柏餅の旗がたなびいていた。

10:40 久ノ浜駅到着。 柏餅を買いに急ぐが、午後2時には閉じてしまう和菓子屋さんで、店の前には4、5人が並んで待っている。柏餅1つ、180円とは安い。ここから四ツ倉までは、常磐線に乗って移動した。



久ノ浜駅にて

D 班(太田・蔵田)

8:47 広野発の JR で太田さんと一緒に久ノ浜駅に向かった。

8:55 久ノ浜駅到着。歩き出そうとしたところ霧雨が降りはじめたため、雨具を着て9時少し過ぎ海岸の方に向かい出発。10分位歩くと河口の橋がある所に着き、そこから防災緑地の堤防が続いていた。

雨も止んだし雨具をぬいで、堤防の上の道を歩いて行った。道は2本あって、両側を松の植栽された道と1段下がった海側に舗装され、サイクリングロードになって勿来まで何kmと書かれた道である。初めのうちは松に囲まれた道を歩いていたが、途中から海側の方に降りてそちらを歩いた。海を見ながら歩けるので後者の方が良い。途中、津波に襲われる以前に保育園があったという案内板があって、改めて津波被害を思い出した。今日はお天気があまり良くないので、海の波が厳しさを感じさせた。

10時頃、観光案内板のある小さな広場で小休止。更に30分程歩いて弁天島の近くで、サイクリングロードは堤防の上から一般道に降り、休憩所(トイレ)の案内もありトイレタイムとする。が、私はちょっと離れた場所にあるトイレまで行くのが面倒で弁天島や歩いてきた海岸線を見ながら、待っていた。その場所は歩道橋がある所で、トイレがある反対側に渡れるのと、こちら側は、すぐ先にあるトンネルの歩行者通路のトンネルにつながっている。自動車が通るトンネルには歩行者通路はなく、別に専用のトンネルがあるなんて初めてだった。

トンネルを抜けると堤防の上の道を歩くのは終わり、6号線の歩道を四ツ倉駅目指して歩く。

さっきトイレに行かなかったのも、駅まで我慢できそうもなく、道の駅よつくら港に寄ってから6号線を離れ内陸側の道に入ることにする。ちょうど道の駅のある交差点付近に駅までの看板もあり確認出来て良かった。トイレを済ませ11時10分頃、道の駅を出発。

所々にお店のある道を歩いて30分程で四ツ倉駅に到着した。

(蔵田記)



弁天島(蔵田撮影)



久之浜の海岸(蔵田撮影)

12:20 上野駅から四ツ倉駅に常磐線でくる山田さんと栗林さんを出迎えた。その後、駅近くの食堂で昼食を食べた。



四ツ倉駅にて



堤防上のサイクリングロードを歩く

13:30 昼食後全員で新舞子浜へ向かった。すぐに堤防上を歩く。久之浜からのサイクリングロードが整備され、「勿来の関公園まで〇〇km」の表示が道路上に書かれている。雄大な太平洋を眺めながら歩く。

13:50 雨が降りだす。

平日のためか、サイクリングロードといっても、数台の自転車が通り過ぎていったに過ぎなかった。川の袂に来ると、堤防は途切れ、堤防に沿った県道に戻る。

14:40 平下神谷。ここからは、県道を歩く。

15:45 新舞子浜公園のホテル湊（かいり）に到着

ホテルから阿武隈山地に沈む夕日が綺麗だった。後で知ったことだが写真に写っているハウスでイチゴが栽培されているようだ。夕食にイチゴがたくさん出てきた理由がわかった。東日本大震災で大きな被害を受けたイチゴ農家が頑張ってハウス栽培を再開したことをネットで知った。



ホテル湊からの夕日

4月9日

朝、オーシャンビューのホテル8階の部屋からの眺めは素晴らしく、残念ながら雲からの日の出となったが、美しい朝日が見られた。

8:20 出発

8:30 堤防上のサイクリングロードを歩く。



ホテル部屋からの朝日



堤防上を歩く

8:52 沼ノ内海岸

本日歩くこととなる沼の内、薄磯、豊間を併せて、豊間3地区はいわき市と市民協議会が連携して、復興計画を策定した。久之浜も含めた同地域が、いわき市で最も津波被害が酷かったところである。主に薄磯を中心に被災当時から復興に至る状況を写真と共に掲載しているブログもあり、興味のある人は、今回の写真と見比べてみることをおすすめする。

9:41 沼ノ内防災緑地

クロマツ、クヌギ、コナラ、エゴノキ、スダジイ、タブノキ、ヤマザクラ、ヤマボウシなど多彩な樹木が植えられていた。



沼ノ内海岸の砂浜を歩く山田さんと栗林さん



小さなウユニ塩湖のような砂浜

10:00 沼ノ内港

小さな漁港があり、堤防上の道が消え、県道382号を歩く。

10：14 薄磯防災緑地

薄磯海岸は、いわき市にあって、最も海水浴客を集めていた海岸だったようだ。確かに、海岸の砂浜は広く、美しい。ここにはテトラポットは置かれていない。

堤防は津波以前のものより7m嵩上げされ、そこにさらに防災緑地を造成するために土を嵩上げた。同緑地造成にあたっては、復興住宅造成のために伐採した木のDNAを残すために、この地区で採取したコナラやスダジイなどのドングリや苗木を集め、この地区の小学生やボランティアが育成したものだそうだ。

10：40 平薄磯

美空ひばり最後のレコーディング曲、みだれ髪みだれかみの舞台である塩野崎を背景に「永遠のひばり像」が建てられている。山田さんと栗林さんは元気よく先に進みこの像を眺めていた。追いつけなかったのでこんな写真になってしまった。



ひばり像を眺める山田さんと栗林さん



美空ひばり記念歌碑の前で休憩



美空ひばり記念碑の解説板（太田撮影）

10：47 美空ひばり記念歌碑の前で休憩し、灯台に登るかどうか協議した。この灯台は登ることのできる数少ない灯台の一つで、映画『喜びも悲しみも幾年月』の原点となったところ。登らないわけにはいかな

い。痛い膝をがまんして皆で登った。外に出ると太平洋の絶景が広がっているが、強風と高所恐怖症のため数枚の写真を撮ってすぐに降りた。



塩野崎灯台にて



塩野崎灯台から歩いてきた海岸線を眺める

11:30 灯台登り口へ戻り、ここで太田と蔵田は次の予定があったため、ここからいわき駅までバスに乗って、東京まで戻ることとなった。

残りの4名で、後のコースを歩く。塩屋崎灯台の麓に食べ物屋があったが、相当混んでいるようだったので、地図では豊間に飲食店があるようだったので、そこで昼食とすることを目論み、歩き始めた。

豊間漁港をすぎ、豊間地区に入り、広い浜の端に、防波堤と防災緑地が造成されていた。

11:44 豊間防災緑地 豊間に食堂がある旨、地図には乗っていたが、なかなか見つからず、防災緑地をいく。

12:10 防災緑地を降り、地図上にあるところを見にいくが、日曜日が休業なのか、それともずっと店を開いていないのか。いずれにせよ、開店しておらず、また付近にも店はなく、地区集会所の隅で休憩。お菓子などを出し合って腹ごしらえ。

地区の集会所前には、慰霊碑があった。豊間地区は高さ8.5mの津波に襲われ、壊滅的な被害を受けた。流失家屋は400戸を超え、住民85名もの尊い命が失われました。地区ごとに犠牲者の氏名と震災前（昭和63年）の風景が刻まれています。防災緑地の建設によりこの風景は失われたのは残念ですが、住民による植樹が行われたことで新しい故郷として地元に着定して行くのでしょうか。この地区の防災緑地や市街地整備に高見沢先輩が関係しているそうです。万感の思いで浜と住宅地を見渡した。

12:46 再び緑地を歩く。



防災緑地内の公園



整備された市街地



犠牲者の名前とかつての風景が刻まれた慰霊碑



新しい風景

13：46 折戸 中之作漁港

日曜日とあって車が何台も停まっていた。この漁港はカツオの一本釣り、サンマ漁等沖合漁業の基地となっている。漁港を経て、三崎公園へ。三崎公園内は急坂で、マリンタワーまで登りが続き疲れた体にこたえた。栗林さんも膝が痛いらしい。

15：20 ホテル花天着

翌日の歩行は18kmあり、歩けるかどうか全員で話し合った。翌朝の体調次第で、今回の歩行を小名浜で終了することも考えた。



今日の宿泊地へ



ようやく着いた宿

4月10日

4:38 目を覚ますと空が赤く染まり始めた。あわてて朝日が昇る位置を想定して撮影できる場所を探した。部屋からでは少し無理と判断し、ホテル中の階段踊り場や風呂のある最上階3階まで歩きまわったが外に出るしかないことが分かった。しかし、ホテル玄関はロックされて開かなかった。万事窮すかと思った時にホテル従業員を見つけ鍵を開けていただいた。

5:00 ホテル前の遊歩道をうろちょろし、結果的に玄関正面の道路際に陣取り、5:09 海からの日の出を堪能した。だるま朝日が見られたので満足し、膝の痛みも、疲れも少しだけ癒された。

撮影後に風呂に入った。展望露天風呂からの眺めが一番良かった。



だるま朝日



朝日の光の道

朝食後の打ち合わせで山田さんと栗林さんは小名浜港へ出たところで歩行から離脱すること、泰一と弥生は歩けるところまで歩くことにした。

9:00 ホテル前から出発。昨日下ってきた道をいわきマリンタワーまで登り、芝生広場を通過して海へと下る。周りには桜が植えられまだ花が残っていた。三崎公園を抜けると小名浜港は近い。

9:20 小名浜港

9:30 イオンモールで山田さんと栗林さんと別れた。彼女たちはここからイオンモールの送迎バスでJR常磐線泉駅に出て、帰宅。



ホテル花天の前にて



三崎公園を抜けると小名浜港



小名浜漁港



イオンモールで山田さん、栗林さんとお別れ



津波到達高さを示す標識の前で

9:45 埠頭緑地公園で休憩

公園（7号埠頭）付近から海を離れ、やがて県道239号を歩く。石油タンクが並ぶ小名浜臨界工業地帯を抜けて行く。小名浜の工業地帯に関する記述では、1960年代から70年代にかけて、煤塵等の公害が激

しく、住民運動も盛んで、補償要求、公害防止協定の締結要求など、他の工業地域と同様の問題があった。

ここも被災したようで、現在はかなり整備されている。さらに地震のために工場が倒壊した製塩企業が廃業し、跡地にバイオマス発電所が建設された。福島には、原発事故後、大型の IGCC 発電やバイオマス発電、そしてメガソーラーと、各種発電事業が立地された。このバイオマス発電もその一つであろう。営業運転開始は、2021 年である。さらに同発電所の共同出資会社として、中国電力が入っていることは興味深い。

ところで、いわき七浜街道の看板に「勿来の関公園まで 16km」の表示を見てまだ先が長いのに疲れを感じてしまった。この種の看板は四ツ倉からずーっと見てきた。「七浜」とは何か。

いわき七浜というと、現在では、「勿来、小名浜、永崎、豊間、薄磯、四倉、久之浜の浜を指すことが多い」とある。戦国時代のいわき地方の領主・岩城氏の頃から呼ばれていたらしい（レファレンス協同データベース）。いわきには浜が多いという表現に使われ、特定はされていなかったようだ。勿来の浜はこれからだが、久之浜から全て歩いたという満足感を感じた。

いわき市の HP には、「いわき七浜海道」について、「白砂青松が広がる本市特有の美しい海岸線に沿って、復旧・復興事業により整備された防潮堤や既存の国・県道や市道などを活用し、自転車走行空間として整備したもの」であり、勿来の関公園から久之浜防災緑地までの総延長約 53km のサイクリングルートであると、示されている。

12:00 麺屋五鉄で昼食。久しぶりのまともな昼食にありつけた。

12:30 左側に小名浜ゴルフコース右手は太陽光パネルがならぶ県道を登りきると、目の前に太平洋が広がった。丘を下ったところに那智神社があった。12:50



埠頭緑地公園と小名浜マリナブリッジ



上り坂でゴールは遠く足取りが重い



岩間海岸と常磐共同火力勿来発電所の遠望



那智神社は階段を登る気力なくお参りはパス

13:20 岩間防災緑地。東日本大震災で倒壊した防波堤の一部が震災の記憶を風化させないために展示されている。

13:30 勿来火力発電所と IGCC パワーの間を通り抜ける。IGCC とは Integrated coal gasification combine cycle 石炭ガス化複合発電で「石炭をガス化し、ガスタービンと蒸気タービンで構成される複合発電設備によって、一般的な石炭火力発電よりも高効率な発電を行うシステム」としている。IGCC 発電所は 2021 年 4 月から運転を開始している。（勿来 IGCC パワー合同会社 HP より）



公園の一角に被災防潮堤が展示されている



勿来 IGCC パワー

14:10 国道 6 号へ出て鮫川大橋を渡る。鮫川大橋は福島県を走る国道 6 号線の中で一番長い 471m の橋。昔はサメが獲れたのかと思いながら、渡り切って国道を離れ海側の道へ入る。

この辺りの国道は、さすがに通行量が多く、しかも大型車の割合が多い。その騒音と風圧を避けたかった。だが、海岸と国道の間の道は、畦道と一般道が微妙に交錯し、勿来駅手前の蛭田川を渡る橋を探すのに苦労した。道を探すという余計な労力も使い、かえって疲れてしまった。



鮫川大橋

15：40 勿来駅に到着して歩行を終了した。なんとか歩き終えた。



ゴール地点勿来駅にて

駅前に源義家（頼朝の曾祖父）の騎馬像がある。後三年の役で奥州を鎮定している。帰りがけに、この地で詠んだとされる歌が碑となっている。

吹く風を なこそこの関と思へども 道もせにちる山桜かな（千載 103）

【通釈】「来る勿(なか)れ」という名の勿来の関なのだから、吹く風も来ないでくれと思うのだが、道を塞ぐほどに山桜の花が散っているよ。Asahi-net.co.jp より

勿来関は、東北と関東を分けるため、勿来を今回の終点とした。しかし、地形的には、北茨城まで同じように続いているようである。



源義家の騎馬像



勿来の関をイメージした勿来駅

8. 感想

1) 山田美知子

四ツ倉から新舞子浜までは風強く、雨混じりの中碎ける波音を聞きながら歩くのも楽しかったです。

この日で歩行楽勝と気を抜いたのがいけない。

翌日晴天の塩屋崎の灯台も登れて唯一の立ち寄りとなりました。ここから先、商店が一軒も無いとは思ってもよらない事でした。人家は在るのに車が無くっては暮らせない地方の生活が身を持って知らされ、昼食抜きになったのは少し辛かったです。

宿に着くまで本当に長いと感じ、疲れました。道路を歩くのだからと軽く見てはいけなかったと思いました。

晴れた空の下綺麗な海沿に、OBの皆様と歩くと里ワンを思い出しても楽しかったですが、途中、津波で亡くなられた方達の碑が有り、この浜辺に暮らす方達の住まいが有った事を知りました。

お宿の方から歩いてここまで来たのですか？（高齢者なのに）と驚かれ嬉しかったです。

とにかくお世話になりました。写真も沢山有り難うございます。

2) 栗林由利

お天気はまあまあだったし、海を見ながら歩くのは快適でしたが、甘く見ていて膝が痛くなったのと、ただ歩くのは正直退屈でした。 ホテルは2つともとても良かった。

3) 高瀬雅男

○ 福島県の海岸線を歩く構想

OBの端くれとして、私も原発事故後の福島県の海岸線を歩けないかと考えたことがある。しかし海岸線は津波の被害や防波堤工事で歩けず、また東電第一原発周辺は避難区域で歩けず、結局様子を見ることにした。その後、常磐自動車道の開通、J R常磐線の全線開通、国道6号線の車両通行が可能となり、つい最近、6号線の歩行も可能になった。横山夫妻から絶妙なタイミングで福島県の海岸線歩行の誘いを受けた。しかし歩行条件が整うのに反比例して、私の体調はおもわしくなくなり、結局、4月6日一日だけの参加（J R双葉駅→大野駅間の数キロを歩く）で、ご勘弁いただくことになった。

双葉町の現在と過去

原発事故前に双葉町に行ったことはなく、以前の双葉町を知らない。双葉町には第一原発の 5～6 号機がある。原発事故は大野町の 1～3 号機で起き、双葉町の住民約 7,000 人は埼玉県に避難した。帰還が許されたのは、事故から 11 年後の 2022 年 8 月 30 である（同年 11 月末現在の帰還者は 50 人）。

J R 双葉駅の西側では、公共施設（集会所、診療所など）や災害公営住宅の整備が進められている。駅の東側は市街地で、地震で倒壊した建物がいくつか残っている。帰還が最も遅かった分、復興も緒に就いたばかりである。

ものの本によれば、双葉町議会は 1961 年に巨大リスクを伴う原発の誘致を決議し、1970 年代末に第一原発 5 号機、6 号機が営業運転を開始した。双葉町には固定資産税や電源立地交付金が入り、豊富な財源をもとに公共施設（役場庁舎、図書館、下水道など）の整備が進められた。そしてこれらの財源が先細りになると、町議会は新たな財源を求めて 7 号機、8 号機の増設を決議した（1991 年）。原発誘致によって町の財政は原発依存になり、麻薬のように原発なしには回らなくなったのである。また原発関連企業や原発関連労働者も増え、町の経済も原発依存になった。

2011 年 3 月、原発反対運動が危惧したように原発事故が起き、目先の利益を求めて原発を誘致した町民だけでなく、東北から関東までの住民が甚大な被害を被った。ゼロからの出発であり、時間はかかるが、原発のない双葉町の復興を期待したい。

トリチウム汚染水海洋放出問題

国道 6 号線を南下し、大熊町にはいると、東（海）側に第一原発の建屋や大型クレーンが見えてくる。目下の大問題は 2023 年春から夏に迫ったトリチウム汚染水の海洋放出である。トリチウム汚染水というと、ALPS（多核種除去装置）で除去できないトリチウムだけが残った水とイメージされがちであるが、そうではない。海水で希釈して基準値以下にするとはいえ（濃度規制であって、総量規制でない）、64 核種の放射性物質（炭素 14、ストロンチウム、プルトニウム、セシウムなどを含む）が数十年にわたって放出される。このような海洋放出は世界に前例がなく、安全だとはいいい切れない。

4) 横山弥生

今回は、電車利用をしながら、交代で歩くという新たな試みでした。この試みは半分成功、半分ちょっと課題あり、でした。連泊の時には身軽なのですが、そうでない時には当然ですが、全ての荷物を持って歩くことになります。膝や腰の痛い高齢者にとっては、負担が大きいことを改めて実感しました。

ところで、今回は双葉から勿来まででした。双葉、大熊両町は、事故炉のある第一原発の町です。避難指示が継続し、除染されない場所が広がっています。海岸線は、中間貯蔵施設と第 1 原発に占領されています。富岡町を見ると、今回歩いた夜ノ森地区は、今年の 4 月 1 日に避難指示が解除されたばかりです。海岸線は、第 2 原発の敷地となっている部分もありますが、多くが今も帰還困難区域となっています。楢葉町以南は、避難指示が出ていた自治体でも、防災緑地が出来上がり、新たな住宅もできていました。一見にして、富岡町以北に比べて、復興していると感じます。

しかし、その復興がどのようなものかは、歩いてみてすぐわかりました。山田美智子さんが、お昼を食べ損ねて大変だったと感想を書かれていましたが、その通りでした。海水浴場が続く海岸線には、付近に食堂やコンビニがあると考えていた愚かさを痛切に感じました。久ノ浜から南でも、海岸付近では家が流され、多くの人が亡くなっています。防災の観点から、沿岸は人の居住を許さない災害危険区域を設け、そこには堤防や防災緑地を設け、海岸付近の人々には高台移転をさせています。そのことを、知識としてはわかっていたのに。

そして、栗林さんが、「海岸線歩きは退屈だった」という感想に、人の営みや自然と共生する「防災」とは何なのか。これを改めて考えさせられた言葉でした。

津波と原発事故で漁業が壊滅的打撃を受け、今も汚染水問題に悩まされ、浜の付近に人は住めず、浜はあっても、その奥に堤防と防災緑地が延々と続く。海にも、浜にも、そしてそのそばの土地にも、人の営みを感じることができません。ただ、慰霊碑が浜ごとに立っています。

私個人は、今度の歩行に当たって、亡くなられた方の鎮魂と現在なお続く津波・原発被害をどう受け止め、そこから将来に何をすべきか、そういうことを歩くことで捉え直す、このようなテーマで歩きました。その意味では、皆さんがそれぞれの感想を持たれたことを含めて、未来世代に私たちが何を残せるのか、残すべきなのか、考えさせられた海岸線歩行でした。

5) 太田正廣

急な個人的事情により初日歩行に参加できず、夕方に現地到着・合流になってしまったのが悔やまれます。今回の最大関心場所は、福島第一原発の北西側地域の現在でした。どのような現状なのか、今後の復興計画はなどが気になる点でした。しかし今回は災害伝承館などでの館員とか近隣の人達との会話を持つことができなかったのが残念でした。昨年11月の歩行では、伝承館などで地元の人達との経験談などを聞く機会があったのは嬉しかったです。

宿泊ホテルでサービスにいただいたイチゴを食べすぎたら、夜明け前にお腹がゆるくなってしまい大苦戦でした。いくつになっても体調管理は難しい。ただ一過性だったので、歩行最終日前日の一日だけの体調不調でした。JR 常磐線いわき駅へ戻る路線バス停は塩屋崎灯台から徒歩5分程度の近距離にあったのは幸運でした。お陰でいわき震災伝承みらい館の見学をする機会に恵まれた。みらい館館員の丁寧な配慮に感謝しています。

今回の歩行前に手持ちスマホを通信料金が安いのに変更したら、海岸線で通信状態が安定せず、帰りの特急乗車券の予約ができなかった。街中に近づいたら問題なく予約可能でした。緊急時の同行歩行者との通信手段の確保の必要性を感じました。個人々の歩行速度は年齢や個人差等により、互いの距離が離れてしまうのは致し方が無いと思う。歩行する海岸線道路には工事用ダンプが通る場合もあり、お互いが確認できる位置での歩行を確保できる工夫が必要と感じています。

6) 蔵田道子

今回の歩行で心配だった事は、移動は、車を使わず JR、バスでという計画に変更になったことです。お天気もあまり良くなさそうで、ちょっと気が重かったです。終わってみれば、距離が余り長くないこともあり、ペースもゆっくりさせていただき、荷物を全部持った移動も何とかクリアできてほっとしました。お天気も、大してひどくなかったし…。でも雨の中を歩くのはやっぱり好きにはなれません。歩き始めてしまって宿まで歩くしかないとかきらめて歩いた感じです。雨さえ降っていなければ、歩くだけでも退屈ではありません。

道端の草花に心が癒され(桜綺麗でした)、海岸の波は見ていて飽きません。原発の問題は、現地の人との関わりがあまりなかったのも、インパクトが少なかったです。人影が少ない街並みや幹線道路から奥へ入る道が立入禁止になっている事等で何となく感じた程度でした。

7) 横山泰一

福島の海岸線を歩くという目的は果たせました。他方で、もう一つの目的である、福島の被災状況と復興の現状をこの目で確認するという意味では、物足りない感じでした。事前に資料も集め、十分に計画を練ったつもりでしたが、荷物を背負って見学することの難しさを痛感しました。常磐線を利用し、歩行区間を分担したのですが、十分ではありませんでした。この点でメンバーに負担をかけさせてしまったのは、申し訳ありませんでした。もう一つ残念だったのが、いわき市にお住まいの11期黒沢さんにお会いできなかったことです。体調を崩されているとのことでした。

初日には、双葉町・大熊町内の、原発事故による避難指示が解除されたばかりの地区を歩きました。まだ線量は高く、果たしてこれから復興できるのかと思ったのが、率直な感想です。富岡町に入ると、富岡駅周辺には新しい住宅が建ち始め、ワイナリーという新たな産業が生まれようとしていて、復興の気配を感じました。いわき市に入ると防災緑地が整備され、新しく住宅も立ち並んでいます。とはいえ、先輩・高見沢さんが復興街づくりに関係した豊間地区では、週末で浜辺に人影はありましたが、見える限りにコンビニを始め商店が少なく、食堂はあっても休んでいたりして、あまり活気が感じられませんでした。

第一、第二原発に占領されて海岸線を歩けなかった前半に対して、後半は風光明媚な磐城の海岸線を行く行程でした。後半を、気持ちよく、楽しもうと、リゾートホテルに2泊するという贅沢な計画を立てました。少し心配でしたが、この二つのホテルの評判が良かったので、ホッとしました。これからは辛い歩行でなく、観光気分で海岸線を歩きたいと思います。

以上